

にしむろアグリ情報



■持続的なウメ産地の発展〔重点プロジェクト〕

ウメは西牟婁地域の基幹作物ですが、冬期の天候不順の影響を受け、生産量や価格が不安定になりやすいことが問題となっています。また、農業従事者の減少や高齢化が進んでいく中、「作業負担の軽減」や「後継者・新規参入者の確保」が急務となっています。

そこで、農業水産振興課では①ウメ‘南高’の生産安定技術の推進、②農作業受託を通じた農家の負担軽減、③新規就農者を総合的に支援する体制づくりに取り組んでいます。

①では「新梢の摘心処理」と「低樹高化」を組み合わせ、収量と作業性を高めた樹形の展示ほを田辺市秋津川に設置しています。併せて各地域で摘心処理の講習会を実施しています。

また、うめ研究所で育成された自家和合性品種‘星秀’を‘南高’の受粉樹として導入推進するため、高接ぎ展示ほを設置しています。

②はウメ園の管理作業（収穫を除く）で特に労力の必要なせん定や草刈りを請け負う組織の現状と課題を把握し、支援する方策を検討しています。



摘心処理の講習会（新庄）

③は多様な担い手の育成・確保のため、田辺市の紀州田辺新規就農者育成協議会の取組をモデルとして周辺の町に働きかけ、新規就農者を受け入れる仕組みづくりを進めています。

関係機関をはじめ農業者の皆様には、展示ほの設置等にあたり多大なご協力を頂いており、得られた成果を講習会等でPRし、普及に努めてまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

西牟婁振興局 農林水産振興部 農業水産振興課

〒646-8580 和歌山県田辺市朝日ヶ丘 23-1

TEL : 0739-26-7941（栽培技術・経営相談、新規就農支援、食育推進など）

TEL : 0739-22-1443（補助事業、鳥獣害対策・狩猟、農地貸借、農家民泊、養蜂など）

FAX : 0739-26-7945

URL : <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130600/130651/index/index.html>

■水田を活用した施設・露地野菜花きの振興

西牟婁地域の野菜花き栽培は、販売価格の低迷と生産者の高齢化、後継者不足により減少傾向となっており、生産者の確保や高品質安定生産、省力化技術の導入が必要となっています。

農業水産振興課では、関係機関と連携し、イチゴ栽培における炭酸ガス施用効果の確認や省力化技術の導入による野菜および花き産地の振興、新規栽培者確保と経営安定化のための地域版モデル指標作成や新規就農者の受入体制整備に関する支援活動を行っています。



ホオズキのセルトレイ育苗による育苗省力化技術の検討

■農業士会女性部会がうめの消費PR活動を実施

7月29日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（田中直美部会長）は、都市の子供たちにうめについて知ってもらい、消費拡大に繋げようと大阪府藤井寺市にある学校法人四天王寺小学校2年生の児童39名と教員2名を対象に、うめの座学とうめジュースづくり体験を行いました。当部会では、今後もうめの消費拡大活動を積極的に行っていく予定です。



うめのお話



うめジュースづくり（実演）

■生活研究グループがリーダー研修会を開催

10月24日、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（森川敏子会長）は、上富田町の県林業試験場で地域の産物であるイタドリの特性や栽培方法、機能性を生かした加工方法等を学ぶことを目的に、リーダー研修会を開催しました。

講師の杉本小夜主査研究員から、「郷土山菜ゴンパチ（イタドリ）の栽培と利活用」と題して講話があり、場内見学を行いました。

当会では、イタドリ料理の試作を行い、レシピ集を作成する予定です。



イタドリに関する講話

■4Hクラブ員によるうめ消費拡大への取組

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（北川翔大会長）は、うめのPR活動に取り組んでおり、観光で扇ヶ浜（田辺市）を訪れた方を対象にうめに関するアンケートを実施しました。その結果、うめシロップを牛乳で割る飲み方が知られていなかったため「うめラッシー」と名付け、地元小学校での出前授業を行いました。今後、クラブ員が作成したチラシを用いて試飲会を行うなど、うめの消費拡大に向け活動していく予定です。



アンケート調査



シロップを持ち寄り試飲



うめラッシーのチラシ

■クビアカツヤカミキリの早期発見に向けた取組

県北部で特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる被害が拡大しています。

農業水産振興課では、関係機関と連携してウメ、スモモ、サクラの定点における発生状況調査を実施しています。紀南地域では成虫の侵入や被害は報告されていませんが、繁殖力が強いいため、早期発見、早期対策が必要不可欠です。疑わしい成虫やフラス（木くずと幼虫の糞の混合物）を発見した場合は、当課又はJAにご連絡ください。



林業試験場提供

クビアカツヤカミキリ成虫



うめ研究所提供

フラス



定点調査(スモモ)

■スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）に注意！

スクミリンゴガイは、南米原産の巻き貝で食用目的に輸入されたものが野生化し、繁殖力が強いいため、西牟婁管内でも水稲の被害が拡大しています。薬剤散布や浅水管理のほか、地域ぐるみで5～7月の適期に貝やピンク色の卵塊の捕殺および溝さらえを行うことが効果的です。詳細な対策は、当課又はJAにお問い合わせください。



スクミリンゴガイの卵塊

◎受賞者の紹介

◆公益社団法人 大日本農会 令和4年度農事功績表彰 緑白綬有功章

■山下 繁一氏（田辺市中芳養）

うめ専作で漬け梅生産にいち早く取り組み、後継者を確保し、スプリンクラー防除などによる栽培管理の省力化、漬込作業の効率化により、次世代にも魅力ある経営を実現されました。

うめ産地のリーダーとして「紀州梅干し」ブランドの維持に尽力されるとともに、農業委員として優良農地の確保、指導農業士（平成29年度退任）及び新規就農者育成協議会委員として後継者育成に貢献されています。



◆令和4年度和歌山県農林水産業賞

■蕨野 準氏（田辺市上芳養）

就農当初から価格が低迷していた温州みかんからうめへの転換に取り組み、パイロット園を中心に330アールまで規模を拡大し、計画的な園地整備、省力機械の導入による安定経営は地域農業の模範となっています。

また、紀州田辺新規就農者育成協議会委員として後継者の育成に尽力するなど地域農業の振興に貢献されています。



■下畑 千秋氏（上富田町岡）

夫から継承した170アールのみかん園地の園内道整備など作業の効率化を進めるとともに、化学合成農薬や化学肥料の使用削減、マルチ被覆など栽培方法にこだわり、コープこうべのプライベートブランド商品として、温州みかんの出荷を実現されました。

さらに、コープこうべ店頭での販売促進にも精力的に取り組まれ、女性農業者の模範となっています。

